

授業概要

本演習は学生に幅広い分野に関心を持ってもらい、自分の問題意識を探る演習講座です。問題意識は、SDGs（持続可能な開発目標）との関連で探ることが大切です。SDGsに向かって社会を作っていくのは皆さん一人ひとりだからです。そのため、SDGsを解説している文献を輪読します。

本演習では、身近な人間関係で構築された世界のみならず外の問題にも関心を持ってもらうことを基調として、卒業論文作成の基礎知識が身に付くよう指導します。大学が実施するイベントや活動に積極的に参加・協力することによって、当該問題に関心を持つことを促します。また、文献を輪読することによって問題提起ができるようになることを促します。

外の問題にも関心を持って問題提起ができるようになると、どんな分野の専門演習を3年次に履修しても良い卒業論文を書くことができます。

授業計画

第 1 回	ガイダンス 授業概要と評価方法
第 2 回	今年度春期 振り返り
第 3 回	履修計画を立てる 時間割表の作成
第 4 回	産学連携活動 参加（協力）準備
第 5 回	大学祭 出展準備
第 6 回	履修登録 確認
第 7 回	オープンキャンパス 紹介・参加申込
第 8 回	図書館ツアー JapanKnowledge Lib
第 9 回	図書館ツアー 日経パリュースーチ
第 10 回	ウェディングケーキの図 社会①
第 11 回	ウェディングケーキの図 社会②
第 12 回	ウェディングケーキの図 社会③
第 13 回	ウェディングケーキの図 社会④
第 14 回	プレゼンテーション①
第 15 回	プレゼンテーション②
第 16 回	

到達目標

- ・身近な人間関係で構築された世界のみならず、外の問題にも関心を持つことができる。
- ・要約および問題提起を含む報告資料を事前に作成することができる。
- ・双方向型のプレゼンテーション（活発なディスカッション）ができる。

履修上の注意

・この授業は、PBL（Project Based Learning）を積極的に使い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行います。特別講師等を外部から招聘する場合があります。費用負担が生じる活動があります。

・シラバスの内容は、参加者の人数や受講学生の関心などに応じて調整・変更される場合があります。また、通常の学内教室以外で授業（学外授業）を実施する場合があります。遅刻3回で欠席1回分にカウントします。

・必要なら初歩的レベルから丁寧に解説をしていくので、基礎知識がなくてもやる気さえあれば十分な能力を身につけられるように指導します。

予習・復習

予習・復習および発展学習を兼ねて教科書をよく読むこと。

評価方法

発表 50%、演習などへの取り組み姿勢 50%で評価します。また、毎回出席を取ります。

テキスト

- ・教科書名：SDGs（持続可能な開発目標）（中公新書 2604）
- ・著者名：蟹江憲史
- ・出版社名：中央公論新社
- ・出版年月：2020年8月 ISBN：978-4-12-102604-0 本体 920円＋税

授業概要

グローバル化やダイバーシティな社会が進む中、地球上に住む80億人の人々のニーズに合わせた様々なビジネスシーンが求められるようになってきた。また、次々と進化するテクノロジーの出現に伴い、新たな注目ビジネスが次々と登場してきている。本演習では、現在注目されている様々なビジネスについて取り上げ、理解を深め、活発なディスカッション等を行いながら、関心あるテーマを掘り下げ、自らで考え、表現する力が修得できるように指導する。

授業計画

第1回	進化し続ける人々のニーズ
第2回	注目のビジネス1：水素ビジネス
第3回	注目のビジネス2：再生可能エネルギービジネス
第4回	注目のビジネス3：宇宙・航空ビジネス
第5回	注目のビジネス4：防衛ビジネス
第6回	注目のビジネス5：エコビジネス、グリーンビジネス
第7回	注目のビジネス6：ウェアラブルデバイスビジネス
第8回	注目のビジネス7：セルフケア・セルフヒーリングビジネス
第9回	注目のビジネス8：医療・介護ロボットビジネス
第10回	注目のビジネス9：再生医療ビジネス
第11回	注目のビジネス10：アンチエイジング・ビジネス、不老不死ビジネス
第12回	注目のビジネス11：スマート農業、スマート漁業
第13回	注目のビジネス12：メタバースビジネス
第14回	人類の未来と伸びるビジネス
第15回	まとめ
第16回	試験

到達目標

- ・変化の激しい現代社会の現状を説明できる。
- ・最新の注目のビジネスの内容について説明できる。
- ・自身の関心のあるビジネスを掘り下げることができる。
- ・コミュニケーションスキルが修得できる。
- ・プレゼンテーションスキルが修得できる。
- ・ライティングスキルが修得できる。

履修上の注意

特になし。積極的な関心をもっている学生の皆さんを歓迎する。

予習復習

毎回授業前に次回の単元について1時間程度予習をし、毎回振り返りのための復習を単元終了後1時間程度行うこと。

評価方法

発表点(25点)、レポート点(25点)、試験(50点)

テキスト

教科書名：図解！業界地図 2024年版
著者名：ビジネスリサーチ・ジャパン編
出版社名：プレジデント社
出版年：2023年(ISBN:978-4833425056)

授業概要

本演習は、「考えることの楽しさ」や「情報を正確に読みとる力、ものごとの筋道を追う力。受け取った情報をもとに自分の論理をきちんと組み立てられる力」を身につけ、「自分の頭で考えていくことができる」やり方を学び、今後の講義や演習、そして社会に出て実践する能力を身につけて欲しいと思います。具体的には、事前にテキスト、ケースや論文を読み、その要約とコメントをレジュメとして毎回提出してもらいます。それをもとに全員でディスカッションと教員から理論の解釈について説明をおこないます。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	思考の整理学 輪読 1
第 3 回	思考の整理学 輪読 2
第 4 回	思考の整理学 輪読 3
第 5 回	思考の整理学 輪読 4
第 6 回	思考の整理学 輪読 5
第 7 回	思考の整理学 輪読 6
第 8 回	思考の整理学 輪読 7
第 9 回	思考の整理学 輪読 8
第 10 回	思考の整理学 輪読 9
第 11 回	思考の整理学 輪読 10
第 12 回	ケース①：経営戦略
第 13 回	ケース②：経営組織
第 14 回	ケース③：製品開発
第 15 回	ケース④：国際経営
第 16 回	レポート提出

到達目標

- ①マネジメント研究における方法論の必要性を説明できる
- ②いくつかの研究方法を理解し、実践できる

履修上の注意

- ①遅刻・欠席はなるべくしないでください。
- ②演習という少人数の環境なので、積極的に自分の考えを発言してください。

予習・復習

- ①予習は、配布プリントの次回講義の該当箇所を読んで、レジュメ（要約とコメント）を作成してください。
- ②復習は、演習中に新たに出てきた専門用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

評価方法

- ①毎回提出のレジュメの内容を評価します。50%
- ②レポートの提出を評価します。50%

テキスト

教科書名：思考の整理学

- ・著者名：外山 滋比古
- ・出版社名：筑摩書房
- ・出版年 (ISBN)：1986年 (978-4480020475)

授業概要

インターンシップに必要なことの全てを指導します。

その理由は、就職戦線がどんどん低学年に降りてきているからです。具体的には、例えば、2年次に特定のインターンシップに参加することにより、内々定してしまうこともあるからです。そこで、本学学生の2年次の春期(特に夏休み)には、インターンシップに行き、他大学の学生に伍して、内々定をとる意気込みで、皆さんに頑張ってもらおうと思います。したがって、その前に、1年次の秋期(教養演習Ⅱ)で、インターンシップのことを網羅的に学習し、実践し、2年次のインターンシップに十分な備えをしておくことが目標です。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方全般、資料配付等の説明）
第 2 回	アイスブレイキング
第 3 回	図書館の利用の仕方
第 4 回	マンダラ・チャートの書き方
第 5 回	インターンシップとは
第 6 回	自分史を作成する
第 7 回	自分の強み・弱みを把握する
第 8 回	企業研究のやり方
第 9 回	志望動機の書き方
第 10 回	履歴書の書き方、エントリーシートの書き方
第 11 回	面接で聞かれることとは？
第 12 回	グループディスカッションのやり方と実践
第 13 回	会社へのメールの仕方、お礼状の書き方等
第 14 回	SPIとは？社会常識テストとは
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末レポートの提出

到達目標

社会人としての資質・能力を養成するために、次のことをできるようにします。

- 1 自分の目標、自分の強み・弱み、を正確に把握することができる。
- 2 志望動機と企業研究とが、有機的につながった形で、理解できる。
- 3 履歴書や、エントリーシートを適切に書くことができる。
- 4 グループディスカッションのやり方を知ることができる。
- 5 会社へのメールや、お礼状を適切に書くことができる。
- 6 社会人としての仕事処理能力養成のためのSPIや常識問題を解くことができる。

履修上の注意

- 1 授業には、毎回出席すること。会社員になってからの欠勤は、失職につながります。そんなことのないように、今から準備をする意味で、ゼミだけは、1日も欠席しないという1年間にして下さい。
- 2 宿題の提出及び提出期限も厳守です。なぜなら、社会人になったら、上司の指示に遅れて仕事をするなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。
- 3 自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力・判断力が鍛えられます。

予習・復習

予習・復習は、宿題の実行、授業内容の徹底的な「理解・訓練・実行」を徹底して下さい。これらのための学習時間は、90分の授業1回につき、合計4時間とすることが、文科省の基準です。

評価方法

期末レポートへの配点が70%、宿題提出・発表の内容等が30%です。

テキスト

- ・教科書名：なし（授業で独自資料を配布します）

授業概要

クリティカル・リーディングとは、精読を通して文章を正確に理解した上で、その内容を論理的に再検証する読み方であり、論文執筆、レポート作成などに先立つ資料等の読解において必要なスキルである。本講義は、新聞記事、評論などの素材において、思考がどのように論理的に構成され、表現されているかを分析し、論証の基本構造を明らかにすることによって、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることである。併せて、論証がきちんとされていない文章の見分け方から議論の飛躍の指摘まで、レトリックに惑わされずに本質を把握する読解技法を身につけた上で、グループディスカッションなどにより、実践的にクリティカル・リーディングの手法を指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション、クラス分け、実施方針説明
第 2 回	「新聞記事」の読解1
第 3 回	「新聞記事」の読解2
第 4 回	「新聞記事」の読解4
第 5 回	まとめ（レポート or 【アクティブラーニング】ディスカッション）
第 6 回	「評論文」の読解1
第 7 回	「評論文」の読解2
第 8 回	「評論文」の読解3
第 9 回	「評論文」の読解4
第 10 回	まとめ（レポート or 【アクティブラーニング】ディスカッション）
第 11 回	「雑誌論文」の読解1
第 12 回	「雑誌論文」の読解2
第 13 回	「雑誌論文」の読解3
第 14 回	「雑誌論文」の読解4
第 15 回	まとめ（レポート or 【アクティブラーニング】ディスカッション）
第 16 回	期末レポート

到達目標

文章を論理的に読解できるようにし、アカデミックな文章作成の基礎を身につけることができる。

履修上の注意

遅刻や欠席をせずに受講し、自分が卒業論文を書くという意識を持って取り組んでほしい。必要に応じて教員がレポート等の課題を課す場合がある。（次回以降に返却する）
 学生と講師によるディスカッションを本講義では大切にしたいと考えている。

予習・復習

- ★事後学習として、授業で取り上げるケーススタディに関する課題レポートを課す。
- ★企業を取り巻くグローバル経済・社会の最近の動向について、新聞記事・テレビでニュース・インターネット等を活用し企業の経営活動や経営戦略を定期的にフォローすること。
- ★関心のある企業の「経営戦略」（多くの企業で「中期経営計画」として企業のホームページでの「企業情報」や「IR（投資家向け情報）」に公表されている）を読み（ホームページで閲覧可能）、専門用語等についての理解を深めておくことが望ましい。
- ★本講義では、学生と講師によるディスカッションを大切にしたいと考えている。

評価方法

1】 期末レポートの成績（50%） 2】 毎回の課題の提出状況（30%） 3】 授業への貢献度（20%）

テキスト

また、教員オリジナルの資料を使用する。実際の経営資料等も含まれるため事前配布は行わない。

授業概要

本演習では、大学で学ぶ目標をしっかりと持つことなど、今後の就学に必要なスキルを修得することを目標としている。自分で自分の課題を見つけ、それについて考え、解決に向けて進む意欲を持つことが重要となる。経営学全般に関して必要なアプローチを容易にする能力を養うことで関連する様々な科目について基礎的な考え方を習得することができるように指導する。

授業計画

第 1 回	本演習の進め方や評価方法
第 2 回	新聞や雑誌の読み方と使い方
第 3 回	専門的な文章の読解力の向上①
第 4 回	専門的な文章の読解力の向上②
第 5 回	専門的な文章の読解力の向上③
第 6 回	専門的な文章の読解力の向上④
第 7 回	専門的な文章の読解力の向上⑤
第 8 回	文章の要約力とレジュメの作成①
第 9 回	文章の要約力とレジュメの作成②
第 10 回	文章の要約力とレジュメの作成③
第 11 回	各自のテーマによる調査発表と討論①
第 12 回	各自のテーマによる調査発表と討論②
第 13 回	各自のテーマによる調査発表と討論③
第 14 回	各自のテーマによる調査発表と討論④
第 15 回	各自のテーマによる調査発表と討論⑤
第 16 回	まとめ（レポート提出）

到達目標

豊かな人間性を備えた企業人になるために、幅広い教養を身につけることができる。それを念頭に置いた上で会計学の基礎的な考え方を向上させ、より高度な学習へと進める能力を養うことができる。

履修上の注意

- ・ 毎回必ず出席してほしい。
- ・ 演習は参加型授業なので、積極的に、発言や議論をしてほしい。
- ・ 就職試験に関する指導（ニュース検定試験などの実施）を行う。

予習・復習

- ・ 配布資料を事前に目を通しておくこと
- ・ 発表や講義の要点をまとめること
- ・ 数回分の課題レポートを提出してもらう。

評価方法

レジュメの作成（30%）と発表（30%）、課題レポート（30%）、ゼミでの積極性（10%）などを総合的に評価する。

テキスト

- ・ 開講時に指示する。
- ・ 必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

本演習の目的は、教養演習Ⅰと同様に、1年生の基礎学力の向上と大学生として必要な知識の蓄積にある。プレゼンテーション、共同研究（グループ研究）を通して、文献の調べ方、発表内容のまとめ方、レジュメの作り方、発表時の言葉遣いなどをマスターし、思考力、表現力、協調性、コミュニケーション能力の向上を目指そう。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法などの説明）
第 2 回	春期を振り返る：何が身につき、何が不足しているのか
第 3 回	個別テーマ：目標設定—大学でどんなことを学び、将来どんな仕事をしたいのか。
第 4 回	統一テーマ：教養として知っておきたい経済理論①「景気」の基本を学ぶ
第 5 回	統一テーマ：教養として知っておきたい経済理論②貧困・格差問題とどう向き合うか
第 6 回	統一テーマ：教養として知っておきたい経済理論③働き方と雇用問題
第 7 回	統一テーマ：教養として知っておきたい経済理論④人口減少・高齢化問題
第 8 回	統一テーマ：教養として知っておきたい経済理論⑤経済学からみた社会保障
第 9 回	統一テーマ：教養として知っておきたい経済理論⑥国際経済の見方
第 10 回	統一テーマ：教養として知っておきたい経済理論⑦環境と経済の関係を学ぶ
第 11 回	グループ研究：キャッシュレス社会の利点と課題①
第 12 回	グループ研究：キャッシュレス社会の利点と課題②
第 13 回	個別テーマ：プレゼンテーション（テーマ・題材が自由）
第 14 回	個別テーマ：プレゼンテーション（テーマ・題材が自由）
第 15 回	個別テーマ：プレゼンテーション（テーマ・題材が自由）
第 16 回	期末試験

到達目標

- ① 基礎学力を確実に高まる。
- ② テキストの内容を理解し、要点をまとめ、プレゼンテーションができる。
- ③ コミュニケーション能力（伝える力、聴く力）は学期初めより明らかに向上する。

履修上の注意

無断欠席・遅刻はしないこと、議論に積極的に参加すること。

予習・復習

与えられた課題の発表について、しっかりと準備してください。

評価方法

ゼミ参加の積極性と発表内容80%、期末試験20%で評価する。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

授業概要

本演習では、1990年代から最近に至るまでの日本の経済社会のダイナミックな変遷を勉強します。このおよそ30年の間に、実体経済の低迷、気候変動問題の深刻化、経済社会のデジタル化の進展そしてコロナ危機など、日本の経済社会はさまざまな難問に直面し、対応を迫られてきました。このような事象の意味や背景を適切に理解することによって、将来的に社会で活躍する上での足がかりを作ることをこの演習の目的としています。基本的には、ゼミ生全員が毎回教科書の指定された箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきます。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第1回	令和経済、波乱の幕開け
第2回	激動の平成経済
第3回	平成バブル崩壊と金融危機
第4回	世界金融危機
第5回	アベノミクスの挑戦と試練
第6回	デジタル革命の衝撃
第7回	気候変動と脱炭素
第8回	SDGs と ESG
第9回	国際的な地球温暖化対策の歩み
第10回	再生可能エネルギーの可能性
第11回	進む少子・高齢化
第12回	社会保障クライシス
第13回	ゼロ金利、デフレとの闘い
第14回	中国台頭と米国の漂流
第15回	グローバル経済と日本の役割
第16回	課題レポートの提出

到達目標

- 過去30年程度の日本経済の特色や変遷を、適切に理解できる。
- 日本経済が直面する構造的な諸課題を理解するとともに、それらの処方箋を提示することができる。
- 報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施することができる。
- 各回のテーマについて、有意義な議論を展開することができる。

履修上の注意

教養演習Ⅱを通して、資料の作成、発表、議論などのやり方をきちんとマスターすることが重要です。また、毎回出席も当然のこととして必要となります。さらに、適宜将来の就職活動に向けての心構えも指導する予定です。

予習・復習

発表担当者は事前にその資料を準備するとともに、全員がテキストの指定された箇所を事前に読んで理解し、各回のゼミ終了後に内容を復習することが必要です。

評価方法

担当個所の発表 40%、各回のテーマに関する意見表明 30%、課題レポート 30%。

テキスト

- ・教科書名：日経文庫『シン・日本経済入門』
- ・著者名：藤井 彰夫
- ・出版社名：日本経済新聞出版
- ・出版年 (ISBN)：2021年4月 (ISBN 978-4-532-11436-7) 本体 1,000円＋税

授業概要

社会科学を学ぶ学生として最低限必要な「現代社会」、「経済経営」への基礎的知識と考え方を指導します。授業の内容として現在は以下を授業計画にしています。しかし詳細はこの演習を履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めます（したがって変更になる可能性があります）。

この授業は座学形式の「講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていく「演習」です。授業への主体的かつ積極的な姿勢が要求されます。

授業計画

第 1 回	授業ガイダンス 授業の内容と課題「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」の説明等
第 2 回	自己紹介（与えられた時間内で初めての人に自分を紹介し、アピールする訓練）
第 3 回	基礎数字①：（日本と世界の）人口、面積、GDP、国連予算分担金、ODA、軍事費
第 4 回	基礎数字②：日本の人口動態：少子化・高齢化・人口減少・生産年齢人口の激減
第 5 回	複利計算の暗算法（Rule of 72）
第 6 回	「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」の発表と提出①
第 7 回	英語①：専門用語（経済用語、会計用語等）と英単語。
第 8 回	英語②：日本と外国との位取り（数字 4567890123 を日本はどう読むか、英語ではどうか）
第 9 回	お金を考える①：ライフステージとお金の効用
第 10 回	お金を考える②：お金をいくら稼ぐか
第 11 回	お金を考える③：お金の正しい使い方
第 12 回	お金を考える④：お金を貯める
第 13 回	「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」の発表と提出②
第 14 回	お金を考える⑤：お金を増やす
第 15 回	お金を考える⑥：お金を貸す、あげる。
第 16 回	学部主催の卒論発表会に参加（2月上旬予定）

到達目標

- ① 経済経営学部学ぶ学生として最低限必要な「経済経営数値」「英語での専門用語」への基礎的知識を身につけることができる。
- ② テーマ「お金を考える」を通じて、物事に対する自分の考えを整理整頓し、思考方法を修得出来る。

履修上の注意

- ・この演習では「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」が課されます。「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」については、「教養演習Ⅰ（福永肇）」のシラバスを参照してください。
- ・授業の進捗状況、受講生の理解度、関心度に応じてシラバスの授業計画は変更する場合があります。

予習・復習

- ① 教員から指示された次回授業への準備（事前に調べておくことなど）。
- ② 「新聞記事のスクラップ・ブック＋コメント」の作成と発表準備

評価方法

新聞スクラップ・ブックの発表と提出（30%×2）、ゼミでの毎回の議論への貢献（40%）を予定しています。詳細は授業で説明します。

なお、毎回の発表に対してはフロアの学生（発表者以外の学生）による評価が行われますが、これは発表した学生自分を成長させるための参考データとし、成績評価では勘案しません。

テキスト

テキストは授業時に紹介します。資料、参考資料は配布します。

授業概要

この演習では「教養演習Ⅰ」を受けて、社会に出たあとにも必要とされる、主体性、コミュニケーション能力、情報収集力、課題発見力（総称して「社会人基礎力」）などをさらに育て伸ばすことを目的として、社会人基礎力を涵養するPBL（Project-Based Learning）のうち、自律的な主体性開発メソッドを実践する。なお、履修者数により下記の授業計画を変更する場合がある。

授業計画

- 第 1 回 ガイダンス（この演習の進め方）
- 第 2 回 オリエンテーション：自己紹介、王様ゲーム
- 第 3 回 軽く議論してみよう：見た目のこわさ、ひょっこりひょうたん島
- 第 4 回 自分の意見を伝える：人生相談、キャンペーンアイキャッチ
- 第 5 回 本格的な議論：埼玉祭・明暁祭の動物園(1)
- 第 6 回 本格的な議論：埼玉祭・明暁祭の動物園(2)発表
- 第 7 回 情報を集める：ダイエットスキル(1)
- 第 8 回 情報を集める：ダイエットスキル(2)発表
- 第 9 回 個性を活かす：わたしのキャラ
- 第 10 回 情報を分析する：後輩に勧めたい住む街(1)
- 第 11 回 情報を分析する：後輩に勧めたい住む街(2)発表
- 第 12 回 問題提起：オーケストラの憂鬱(1)
- 第 13 回 問題提起：オーケストラの憂鬱(2)発表
- 第 14 回 計画の構想：SaiGaku Tower (1)
- 第 15 回 計画の構想：SaiGaku Tower (2)発表
- 第 16 回 ふりかえり

到達目標

- (1) 自分から意欲的に物事に取り組むことができる
- (2) 自分の意見を論理的に人に伝えることができる
- (3) 課題を自ら発見し、チームで協働することで解決ができる
- (4) 情報を収集・整理・分析し、問題解決に結びつけることができる
- (5) プレゼンテーション資料を作成できる

履修上の注意

この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持ち、自律的な主体性を習得することにある。受け身の「座学形式の講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていくことを最も重視する。事前連絡なしの欠席・遅参を厳禁とし、疾病・負傷等による欠席は、必ず授業開始前に連絡する。

予習・復習

毎回の授業の中で、次回までに進めておくべき授業外学習（予習・復習）を指示する。授業外学習はグループで発表する準備（打ち合わせ）が主で、グループ内での打ち合わせ時間調整も必要である。学習に取り組む時間の目安は 1 回あたり合計 120 分程度である。

評価方法

①演習への取り組み姿勢（25%）、②発表回での取り組み姿勢（各 15%×5 回＝計 75%）で、総合的に評価する。ただし、成績評価には、出席ポイント 10.0pt 以上が必要条件である。

テキスト

必携のテキストは用いない。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え、有意義な大学生活が過ごせるようになり、自分の将来像を描けるようになって欲しい。

授業計画

第1回	自己紹介の文章を作成し報告する。履修計画を立てる。
第2回	本演習の概要
第3回	大学に入って何を学びたいかを考える。
第4回	文献を読もう
第5回	文献を読もう
第6回	文献を要約しよう
第7回	文献を要約しよう
第8回	大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる
第9回	大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる
第10回	自分の適性を知り、将来の進路について考える
第11回	自分の適性を知り、将来の進路について考える
第12回	プレゼンテーション資料の作成
第13回	プレゼンテーション資料の作成
第14回	プレゼンテーション
第15回	プレゼンテーション
第16回	振り返り

到達目標

- ・自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- ・政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知ることができる。
- ・大学での学び方を体得することができる。
- ・自分の将来について考えることができる。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取組み（30%）、課題の提出状況（30%）、レポートまたは試験（40%）により総合的に評価する

テキスト

指定しない

授業概要

この演習では、経営学の基礎基本を理解することを目標に授業を行います。みなさんが、これから学ぶ経営学は、様々な分野につながる学問です。さらに、大学で今後、どのようなことを専門的に学んでいきたいか考えていくためには、経営学の基礎基本について理解を深めることが必要です。そのため、本演習では、発表、ディスカッション、グループワークを通じて、プレゼンテーションのスキルやコミュニケーション、ディスカッションスキルについても学んでいきます。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	経営学とは
第3回	新しい事業を創造するイノベーション論
第4回	売れる仕組みを作るマーケティング論
第5回	事業のかたちをつくる事業システム論
第6回	会社の経営経営方針を決める経営戦略論
第7回	自分の働き方を考える組織行動論
第8回	会社を動かす仕組みを知る経営組織論
第9回	経営学で押さえておくべき人物
第10回	まとめ①（これまでの授業のおさらい）
第11回	発表準備① 調べる
第12回	発表準備② まとめる
第13回	発表①
第14回	発表②
第15回	まとめ
第16回	レポート提出

到達目標

本演習は、以下の2点を到達目標としています。

- ・経営学とはなにか基礎基本的な知識を身につけることができる。
- ・経営学の理論についてわからない人でもわかるように説明することができる。

履修上の注意

- ・大学で経営学を学ぶための基礎となる科目です。毎回の授業に必ず出席してください。
- ・シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- ・やむを得ない場合は欠席（または遅刻）をする場合は、水野まで連絡をすること。

予習・復習

予習：テーマについて調べる。発表担当者は発表の資料（レジュメ・パワーポイント）を作成する。
 復習：学習した内容を他の授業等で活用し、大学生活を送ること。

評価方法

- ・発表（40%）最終レポート（30%）毎回の課題（30%）で評価する。

テキスト

- ・授業ごとに資料を配布するためテキストの購入はない。参考文献は必要に応じて授業内で提示する。

授業概要

デジタル技術を活用した新たな社会である Society5.0 やDX (Digital Transformation) について喧伝されてから久しくなりますが、その実現に向けて企業等は確実に動き始めています。社員や新卒採用者にデジタル技術やそれに関わる経営上の知識 (企業活動の基礎・法務・経営戦略・マーケティング活動・システム戦略) を求めるようになってきています。そのため、それらを身に付けたことの証となるITパスポートと呼ばれる国家試験の受験者が格段に増えてきました。就活時のエントリーシートにITパスポートを取得したかどうかを書かなくてはならない企業の数も多くなりつつあります。

そこで、この教養演習では、ITパスポート用の教科書を用いながら、マネジメント系やテクノロジー系の基礎的な知識と技術について指導します。

授業計画

第1回	はじめに (教養演習Ⅱの目標と進め方: ITパスポートとは)・自己紹介
第2回	開発技術① (システム開発技術)
第3回	開発技術② (ソフトウェア開発管理技術)
第4回	プロジェクトマネジメント
第5回	サービスマネジメント① (サービスマネジメント)
第6回	サービスマネジメント② (システム監査)
第7回	テクノロジー系基礎理論① (離散数学)
第8回	テクノロジー系基礎理論② (集合と論理・順列組み合わせ・統計)
第9回	テクノロジー系基礎理論③ (アルゴリズムとプログラミング)
第10回	技術要素① (情報デザイン)
第11回	技術要素② (情報メディア)
第12回	技術要素③ (データベース)
第13回	技術要素④ (ネットワーク)
第14回	技術要素⑤ (通信プロトコル)
第15回	情報セキュリティ
第16回	まとめ

到達目標

- ・ITパスポートなどの情報処理技術者試験について説明できる。
- ・マネジメント系の知識・技術について理解し、模擬問題に答えることができる。
- ・テクノロジー系の知識・技術について理解し、模擬問題に答えることができる。

履修上の注意

コンピューターに関し一定の知識を求められるので、コンピューターに関する何かの科目を履修済みか履修中である方が好ましいです。ただし、この演習でパソコンは使いません。

予習・復習

予習: 教科書の次回の学習内容に目を通しておいてください。

発表者は、内容の説明ができるように準備しておいてください。

復習: 演習で学んだ内容を復習しましょう。

評価方法

発表態度 (40%) と期末レポート (60%) で評価します。

ただし、出席回数が10回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

テキスト

教科書

間久保恭子『徹底攻略 ITパスポート教科書+模擬問題 令和6年度』インプレス、2024年3月予定

ISBN: 未定